教育研究業績書

2024年05月20日

所属： 歴史文化学科　　資格： 講師　　氏名： 加茂　瑞穂

研究分野	研究内容のキーワード
日本近世・近代染織意匠，日本文化史	図案,服飾,工芸,京都,デジタル・アーカイブ
学位	**最終学歴**
博士(文学)	立命館大学文学研究科人文学専攻博士課程後期課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.視聴覚教材による教育	2020年4月～	公開している美術工芸関係のHPやデータベースのURLを提示して静止画・動画を活用して予習・復習を促した。また、講義人数に合わせてリアルタイムでの講義、オンデマンド講義を使い分け、チャットや音声でのやりとり、Youtubeなどさまざまな手法を駆使している。
2.データベースの活用及び、デジタル・アーカイ ブの実践的な学び	2016年9月～2018年3月	授業内で、江戸時代の錦絵に描かれている文字情報を翻刻し、いつ出版され・誰が・何を描いたものなのかを文献によって考証作業を実践的におこなった。美術作品も含めた文化資源がデジタル化とともに専門的な知識の蓄積によって成立することを取り上げた。
2 作成した教科書、教材		
1.Google Arts and Culture「日本の匠」	2016年1月～	Google Arts and Culture「日本の匠」内で「伊勢型紙」、「長板中形」の解説を担当。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.学芸員	2020年4月～2023年3月	武庫川女子大学附属総合ミュージアム（2020年4月～2022年2月）、立命館大学アート・リサーチセンター（2022年2月～2023年3月）にて実務経験有り。
4 その他		
1.立命館大学Preparing Future Faculty(大学教員準備セミナー)	2014年7月	大学教員を目指す大学院生・専門研究員を対象に、大学で教えるために必要な基礎的スキルを養成する集中講座。学生の理解を深めるための講義、シラバスの組み立て方などを実践的に学び、修了。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.学芸員資格	2008年3月31日	立命館大学において学芸員資格を取得した。
2.色彩検定	2005年	AFT主催・文部科学省後援　色彩検定1級を取得した。
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.学芸員	2022年2月2023年3月	立命館大学アート・リサーチセンターにおいて学芸員として勤務した。
2.学芸員	2020年4月2022年2月	武庫川女子大学附属総合ミュージアムにて学芸業務、データベース関連業務を担当した。
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.里帰りしたビゲロー本　絵巻『酒典童子』とその物語	共	2023年2月	立命館大学アート・リサーチセンター	数奇な運命を辿り、立命館大学アート・リサーチセンターに収蔵された絵巻『酒典童子』。修復を完了し、全体像とともに酒呑童子にまつわる資料を紹介しながら酒呑童子の物語の広がりについて提示した。
2.粋を尽くす　近現代のきもの	共	2022年10月	武庫川女子大学附属総合ミュージアム	2022年度秋季展『粋を尽くす　近現代のきもの』図録。
3.西川祐信『正徳ひな	共	2022年2月	臨川書店	江戸時代における小袖の参考本として広く活用された雛形本。その

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
形』 ― 影印・注釈・研究 ―				なかでも京都の絵師・西川祐信が手がけ、明治期まで影響を与えながらも現存の少ない『正徳ひな形』を取り上げた。影印・翻刻・注釈編、論文編の二部構成によって詳説した。共編者：石上阿希
4.芸術の価値創造――京都の近代からひらける世界	共	2021年3月	昭和堂、全400頁（担当：pp.58－75）	「京都高等工芸学校が明治期に収蔵した画譜および図案集の履歴―産業界から教育機関へ」担当。京都工芸繊維大学の前身校である京都高等工芸学校には明治期の図案集が収蔵されている。履歴を追っていくことにより、図案集という出版物が産業・教育において重要であったことを論じた。編者：三木順子・平芳幸浩・井戸美里
5.文化・情報の結節点としての図像―絵と言葉でひろがる近世・近代の文化圏―	共	2021年3月	晃洋書房、全146頁（担当：pp.35－44）	「図と言葉による意匠―『武具訓蒙図彙』と『女用訓蒙図彙』」担当。近世には図と言葉による百科事典『訓蒙図彙』が刊行された。訓蒙図彙の派生形である二冊を比較しながら、意匠を絵と言葉でどのように表現してきたのか、また、編集方針によって違いが生まれていたことを論じた。編者：山田奨治・石上阿希
6.きものとデザイン―つくり手・売り手の一五〇年	共	2020年5月	ミネルヴァ書房、全234頁（担当：pp.21-45）	「染色デザインの近代化―京都における友禅図案募集をめぐって」担当。江戸時代から昭和に至るまで時代ごとに素材やデザイン、流通でイノベーションを起こし消費を活性化してきたきもの業界に焦点をあてた。編者：島田昌和
7.ニッポンの型紙図鑑	単	2020年4月	青幻舎	京都市内の企業に所蔵される型紙コレクションに関する62本のコラムをまとめた書籍。梅や唐草などといった項目に分け、型紙のみならず美術工芸品との比較をおこなった。
8.花街と芸妓・舞妓の世界: 継がれゆく全国各地の芸と美と技	共	2020年2月	誠文堂新光社、全271頁（担当：pp.120-123、190-191、220-221）	全国の花街文化の現在を紹介した書籍。編者：松田有紀子・田中圭子・山本真紗子・ 片山詩音
9.図案家の登場―近代京都と染織図案 III	共	2019年8月	京都工芸繊維大学美術工芸資料館	明治期は、図案を専門的に制作する「図案家」が社会的にも認知されはじめた。明治から戦前期を通して図案家が手がけてきた仕事から、近代京都における制作現場の図案を紹介した。共編著者：岡達也
10.女・オンナ・おんな―浮世絵にみる女のくらし	共	2019年4月	渋谷区立松濤美術館	江戸時代に生きた女性の「くらし」の様相を、描かれた資料や文献から捉える展覧会の図録。論考、作品解説、全体の編集を担当。共編著者：石上阿希、やまもとゆかり、渋谷区立松濤美術館
11.掌のなかの図案―近代京都と染織図案 II	共	2018年9月	京都工芸繊維大学美術工芸資料館	「図案集」という工芸品のデザインソースにスポットをあてた。図案集の基礎調査から開始し、各所蔵機関が明治期に購入・寄贈された図案集を中心に解説した。公共図書館や教育機関が集めた図案集の果たした役割、そして図案集と染織産業との関わりについても紹介した。共編著者：岡達也
12.纏う図案―近代京都と染織図案 I	共	2017年10月	京都工芸繊維大学美術工芸資料館	美術工芸作品や産業製品をつくるためにはアイデアを描いた「下絵」つまり＝図案が描かれた。展覧会では、図案に焦点をあて、明治期を中心に、描かれた図案を産業・教育の両面から捉え、京都における工芸・産業の発展の一側面を紹介した。共編著者：岡達也
13.近代京都の着物図案に関する研究　調査報告書	共	2017年2月	文化学園大学・文化ファッション研究機構	共同研究としておこなった3年間の活動をまとめた報告書。近代染織に関する資料調査を通じて判明した所在情報をまとめた。共編著者：山本真紗子・並木誠士・青木美保子・山田由希代
14.学術資料としての「型紙」―資料の共有化と活用に向けて	共	2017年2月	立命館大学アート・リサーチセンター	国際シンポジウムの内容をまとめた報告書。型紙は世界各地で保存されているが、保存方法や整理方法、研究方法が確立されていない。所蔵機関の方針や課題、現状なども含めて、型紙を取り巻く現在を共有した報告書。共編者：鈴木桂子
15.権藤芳一　上方芸能を語る―能楽・文楽・歌舞伎、そして武智鉄二―	共	2011年2月	立命館大学アート・リサーチセンター	演劇評論家・権藤芳一氏を招き、戦前・戦後の上方芸能やそこへ関わってきた人々ついて聞き取り調査をおこなった。その内容を研究会で整理し、注釈をつけるなどしてまとめた報告書。共編著者：石上阿希・赤間亮・森西真弓・廣瀬千紗子・大西秀紀・倉橋正恵・松葉涼子・相原進
2 学位論文				
1.博士論文　着物の意匠にみる江戸・明治期の日本文化	単	2012年3月	立命館大学	江戸時代から明治時代にかけてきものの意匠がどのような変化を遂げながら展開してきたのか、意匠がどのように「見られて」きたのかを明らかにした。また、絵画資料や型紙、図案など、テキスタイルではなく新出の周辺資料を取り上げながら分析をおこなった。
2.修士論文　歌舞伎衣裳の考察―お七・お	単	2008年3月	立命館大学	現在は定型化している歌舞伎衣裳であるが、近代以前は役者の好みや役に対する解釈によって自由に準備されていた。その変遷や変更

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2 学位論文				
三輪の場合―				の背景を絵画資料及び上演資料を精査することにより、明らかにした。
3 学術論文				
1.近代における図案―きものと図案の関係性について―	単	2022年10月	武庫川女子大学附属総合ミュージアム pp.44-50	2022年度秋季展図録『粋を尽くす　近現代のきもの』に掲載。染織図案が実際のきものに反映されるまでの具体的様相について論じた。
2.(査読有)「伝統文様アノテーション自動化のための自然画像とフラクタル画像による事前学習」	共	2021年12月	情報処理学会『じんもんこん2021論文集』pp.260-267	伝統文様のデジタルアーカイブ化に資するアノテーション自動化手法について検討した研究。共著者：鏡川悠介・久保山哲二・前田英作
3.(査読有)「友禅協会『伊達模様』の募集とその周辺―明治後期・京都における流行創出との関わり」	単	2021年2月	『デザイン理論』意匠学会、77号、pp.69－83	染織品生産地である京都に目を向け、図案を創出する地域として京都が果たした役割について検討した。そして、友禅協会の図案募集や応募図案を通じて京都ではどのような図案が生み出されていたのかを明らかにした。
4.(査読有)「千總コレクションにみえる明治・大正期の型友禅とその生地」	共	2020年3月	『嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学紀要』第45号、pp.13－20	友禅染の老舗が所蔵する明治～大正に制作された見本裂をデザインと生地から考察した。明治期の友禅染における技術革新とともに、新技術をすぐに実制作へ反映させていたことを明らかにした。共著者：上田香
5.(査読有)「友禅協会応募図案にみる明治後期の染色意匠―第26回から37回を中心に」	単	2018年3月	『アート・リサーチ』立命館大学アート・リサーチセンター、18号、pp.3-13	明治期に京都で開催された友禅染向けの図案募集について考察した。特に明治33年から44年の終了までを対象期間とした。応募図案がめまぐるしく変化しつつも、日本的なモチーフが継続的に使用されていたこと応募図案と文献資料から明らかにした。
6.(研究ノート)型紙コレクションにみる文様の傾向と比較 ―吉岡コレクションを例として	単	2015年3月	『アート・リサーチ』立命館大学アート・リサーチセンター、15号、pp.51－59	約2,000枚の型紙コレクションの整理をし、他コレクションと比較することにより、文様の傾向や共通性を見いだし考察した。
7.(査読有)「型紙コレクションのデジタル・アーカイブとその効用」	単	2015年3月	『アート・ドキュメンテーション研究』アート・ドキュメンテーション学会、22号、pp.3－14	染に使用された型紙は、多様な意匠が表現されている。約18,000枚のコレクションをデジタルアーカイブし、型紙の特性とデジタル化の効用を論じた。
8.(査読有)「友禅協会の図案にみるデザインの変化―第1回から第25回を中心として」	単	2014年3月	『アート・リサーチ』立命館大学アート・リサーチセンター、14号、pp.19－30	明治期の京都で開催された、友禅染向けの図案募集に応募された図案を考察した。特に明治25年から32年を対象期間とし、図案募集の創設期からめまぐるしく図案が変化してきた様子を応募図案と文献資料から明らかにした。
9.(研究ノート)祐信の服飾意匠とその特徴―風俗絵本と小袖雛形本を手がかりに	単	2013年3月	『西川祐信研究会論文集』立命館大学アート・リサーチセンター、pp.87-99（全172頁）	きものの意匠として人気のあったモチーフが江戸中期の絵本にもすぐに取り入れられていたことを明らかにした。編者：石上阿希
10.(査読有)「財団法人京染会蔵友禅協会図案について―明治期の友禅図案」	単	2012年3月	『服飾文化学会誌〈論文編〉』服飾文化学会、12号、pp.59－69	明治期にあらたな意匠を開発するために懸賞付きの図案募集が各地で開催された。本稿では、図案群が友禅協会の応募図案であること、加えて資料群の性格を明らかにした。
11.(査読有)「歌舞伎衣裳の変遷とその視覚的な工夫について―『妹背山婦女庭訓』四段目お三輪を例として―」	単	2011年5月	『歌舞伎　研究と批評』歌舞伎学会、46号、pp.93－107	『妹背山婦女庭訓』に登場する娘お三輪。現在歌舞伎で演じられる衣裳は定型となっているが、定型に至るまでどのような変化があったのか、あるいはなぜ現在の形へと変化してきたのかを、絵画資料とお三輪の役柄、歌舞伎役者から明らかにした。
12.(査読有)「『八百屋お七』から『お嬢吉	単	2011年3月	『アート・リサーチ』立命館大学	歌舞伎で演じられる若い娘の「八百屋お七」と八百屋お七を下敷きに別の役を創作したお嬢吉三。絵画資料に描かれた衣裳を精査する

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
三』へ一衣裳デザインの創造について」			アート・リサーチセンター、11号、pp.5－16	と、八百屋お七を連想させるよう視覚的に工夫をしながら、別の役としてお嬢吉三を作り上げていることを明らかにした。
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.Deciphering Edo Period Designs: The Social and Cultural Context of Early Modern and Modern Kimono Pattern Books	共	2021年8月	16th International Conference of the European Association for Japanese Studies	査読有・国際会議。オンライン開催。“Deciphering Edo Period Designs: The Social and Cultural Context of Early Modern and Modern Kimono Pattern Books” 発表者：Aki Ishigami, Michelle Kuhn Hirano, Mizuho Kamo
2.消費とデザイン一着物からのアプローチ	共	2019年10月	経営史学会第55回全国大会	査読有 発表者：島田昌和・加茂瑞穂・田村均・川越仁恵・鈴木桂子
3.友禅協会による「伊達模様」募集とその周辺一明治後期における流行創出との関わり	単	2019年8月	第61回意匠学会大会	査読有 滋賀県立大学
4.The Kimono Kaleidoscope: A Multifaceted Discussion of the Kimono, from the Kosode Hinagatabon to Today’s Antique-Kimono Fad	共	2017年7月	Asian Studies Conference Japan (ASCJ)	査読有 発表者： Michelle Kuhn, Mizuho Kamo, Ayako Yoshimura, Mari Yoshida 立教大学
5.型紙コレクションのデジタル・アーカイブとその効用	単	2014年11月	JADS秋季研究発表大会	査読有 お茶の水女子大学
6.Transformations of the ‘Whose sleeves?’ (Tagasode) Motif in Various Art Forms : An Interdisciplinary Study of Art, Literature and Design	単	2011年11月	The International Association for Japan Studies, The 7th Convention	査読有 京都女子大学
7.The Location of the Motif: Late Edo Period Visual Language Shared In Ukiyo-e, Decorative Arts and the Theatre	共	2011年4月	Conference of the Association for Asian Studies (AAS) Annual Conference	発表者 Monika Bincsik, Akihiro Tsukamoto, Roko Matsuba, Mizuho Kamo 査読有 Honolulu Convention Center
8.『妹背山婦女庭訓』お三輪の衣裳に見られる変遷と現行衣裳の出自	単	2009年12月	歌舞伎学会 平成21年度秋季大会	査読有 鶴見大学
３．総説				
1.(解説)「銘仙にみる王道とモダンの交錯」ほか	単	2023年10月	武庫川女子大学附属総合ミュージアム『近代のきものがみた夢』P.11、20、36	2023年度武庫川女子大学附属総合ミュージアム秋季展図録。銘仙にみられる伝統的なモチーフとモダンなモチーフがうまく融合しながら新たなきものが生産されていたこと紹介した。編者：武庫川女子大学附属総合ミュージアム

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
３．総説				
2.(解説)美術館・博物館に収蔵される染織品(4)さまざまな染織技法	単	2022年8月	『繊維製品消費科学』63（8)、pp.509-513	国内に所蔵される染織品解説と所蔵機関を紹介する全4回のシリーズ。第4回は染織技法について取り上げ、特徴的な資料について紹介した。
3.(解説)「美術館・博物館に収蔵される染織品(3)男性はいかにおしゃれを愉しんだのか」	単	2022年6月	『繊維製品消費科学』 63（6)、pp.379-383	国内に所蔵される染織品解説と所蔵機関を紹介する全4回のシリーズ。第3回は男性の服飾について焦点をあて、男性はいかにおしゃれを愉しんだのか、資料の紹介と所蔵機関についても紹介した。
4.(解説)「美術館・博物館に収蔵される染織品(2)個人・企業コレクション由来の品々にみる美意識と蒐集の意図」	単	2022年4月	『繊維製品消費科学』 63（4)、pp.219-223	国内に所蔵される染織品解説と所蔵機関を紹介する全4回のシリーズ。第2回は個人や企業が母体となった博物館・美術館を４館取り上げ、所蔵される資料を開館の経緯とともに紹介した。
5.(解説)「シリーズ「美術館・博物館に収蔵される染織品」― シリーズ開始にあたって」	単	2022年2月	『繊維製品消費科学』 63（2)、P.92	国内に所蔵される染織品解説と所蔵機関を紹介する全4回のシリーズ。所蔵品と博物館・美術館とを結びつけることにより、改めて各館の染織品が継承された経緯を捉える。
6.(解説)「美術館・博物館に収蔵される染織品(1)個性豊かな収蔵品と大学ミュージアムの関わり」	単	2022年2月	『繊維製品消費科学』 63（2)、pp.93-97	国内に所蔵される染織品解説と所蔵機関を紹介する全4回のシリーズ。第１回は大学ミュージアムを４館取り上げ、所蔵される資料を開館の経緯とともに紹介した。
7.(解説)近代のきものにみる王朝文化のモチーフ	単	2021年10月	『王朝文化（ロイヤリティ）へのまなざし　戦前期女子教育における』 武庫川女子大学附属総合ミュージアム、P.38(全63頁)	2021年度武庫川女子大学附属総合ミュージアム秋季展図録。近代のきものに王朝文化のモチーフがどのように取り込まれたのかコラムを執筆。編者：武庫川女子大学附属総合ミュージアム
8.「美術　いま関西で」48	単	2020年3月	大阪日日新聞	武庫川女子大学附属総合ミュージアム「きものに見るモダン生活の軌跡」の展覧会を紹介した。生活に即しながら着物を扱う展覧会であることを紹介した。
9.(解説)「「衣」をコーディネートする」「色鮮やかな友禅染」「四季の装いと着物」「江戸小紋と花街の着物」「加賀友禅の着物」	単	2020年2月	『花街と芸妓・舞妓の世界: 継がれゆく全国各地の芸と美と技』 誠文堂新光社、pp.120-123、190-191、220-221（全271頁）	全国の花街文化の現在を紹介した書籍。編者：松田有紀子・田中圭子・山本真紗子・ 片山詩音
10.「美術　いま関西で」14	単	2018年10月	大阪日日新聞	関西で開催されている展覧会を紹介するコラムの中で、自身が企画した『掌のなかの図案―近代京と染織図案 II』を紹介した。企画の意図や裏側など企画者目線で展覧会を紹介する内容。
11.浮世絵に描かれる装い	単	2013年10月	『文様の格付け、意味、時代背景、由来がわかる 着物の文様とその見方』 誠文堂新光社、P.153、P.209(全304頁)	きもののデザイン性や芸術性を浮き彫りにする書籍。浮世絵に描かれた装いと歌舞伎衣裳についてコラムを執筆。著者：似内恵子
12.浮世絵に描かれた夏着物	単	2013年7月	『涼をよぶロマンキモノ展―夏の愉しみ』pp.6-7(全11頁)	神戸ファッション美術館で開催した「涼をよぶロマンキモノ展」図録の中で浮世絵に描かれたきものについてコラムを担当。編者：京都古布保存会

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
３．総説				
			神戸ファッション美術館	
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
1.(展覧会)近代のきものがみた夢	共	2023年10月	武庫川女子大学附属総合ミュージアム	2023年度武庫川女子大学附属総合ミュージアム秋季展へ実行委員として参加し、展示品の選定、解説等を担当した。
2.(展覧会)粋を尽くす　近現代のきもの	共	2022年10月	武庫川女子大学附属総合ミュージアム	2022年度武庫川女子大学附属総合ミュージアム秋季展へ実行委員として参加し、展示品の選定やレイアウト、解説等を担当した。
3.(展覧会)武庫女とスポーツ―1939～1970	共	2021年6月	武庫川女子大学附属総合ミュージアム	女子教育と体育・スポーツがどのように関わってきたのか、武庫川女子大学が現在の立ち位置を確立していくプロセスを学院創立の1939年から1970年の日本万国博覧会に焦点をあてた展覧会。
4.(展覧会)図案家の登場―近代京都と染織図案　III	共	2019年8月	京都工芸繊維大学美術工芸資料館	明治期は、図案を専門的に制作する「図案家」が社会的にも認知されはじめた。明治から戦前期を通して図案家が手がけてきた仕事から、近代京都における制作現場の図案を紹介した。
5.(展覧会) 女・オンナ・おんな―浮世絵にみる女のくらし	共	2019年4月	渋谷区立松濤美術館	江戸時代に生きた女性の「くらし」の様相を、描かれた資料や文献、実物資料から捉える展覧会。
6.(展覧会)掌のなかの図案―近代京と染織図案 II	共	2018年10月	京都工芸繊維大学美術工芸資料館	「図案集」という工芸品のデザインソースにスポットをあてた。公共図書館や教育機関が集めた図案集の果たした役割、そして図案集と染織産業との関わりについても紹介した。
7.(展覧会) 纏う図案―近代京都と染織図案 I	共	2017年9月	京都工芸繊維大学美術工芸資料館	美術工芸作品や産業製品をつくるためにはアイデアを描いた「下絵」つまり＝図案が描かれた。展覧会では、図案に焦点をあて、明治期を中心に、描かれた図案を産業・教育の両面から捉え、京都における工芸・産業の発展の一側面を紹介した。
8.(展覧会)涼をよぶロマンキモノ展―夏の愉しみ	共	2013年6月	神戸ファッション美術館	大正・昭和の夏きものに焦点をあて、髪型、化粧にいたるまで全身のコーディネートも含めて紹介。作品選定・作品解説の一部を担当。
9.(展覧会)見る・読む・知る　歌舞伎と劇場	共	2010年12月	立命館大学アート・リサーチセンター	歌舞伎を受容する側である観客の立場に立ち、歌舞伎文化がどのように日常生活の中に浸透していたのかを紹介。作品選定・作品解説の一部を担当。
10.(展覧会)Paul Binnie 作品展	共	2007年11月	立命館大学アート・リサーチセンター	日本で木版画の技術を学んだポール・ビニー氏(スコットランド出身)の版画作品を集めた展覧会。作品解説の一部を担当。
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.講演会「流行の創出―明治期のきものから」	単	2024年2月9日	京染会館・京友禅協同組合連合会総合研修	明治期の型友禅向け図案を通して流行が創出される過程を紹介した。
2.講演会「染織デザインのあれこれ―江戸から明治へ―」	単	2023年5月20日	奈良市中部公民館・立命文華会共催講座	染織品の文様が芸能・文化・風俗と密接な関わりを持っていることを絵画資料や図案資料などから紹介した。
3.シンポジウム「小袖をめぐる言葉と形―西川祐信『正徳ひな形』を読む―」	共	2022年3月	国際日本研究センター	オンライン開催。登壇者：石上阿希・加茂瑞穂・長崎巌・礒本延・髙須奈都子・山田奨治
4.企画展特別講演会「染色型紙にみるデザインの世界」	単	2021年11月	三木市立みき歴史資料館	企画展「地域の史料たち 5～三木の染め型紙」の特別講演会。研究の中で目にした特徴的なデザインの型紙やそのデザインの背景や意味について解説した。
5.文化情報学事典	共	2019年12月	勉誠出版、全850頁（担当：pp.417-423）	「服飾―多様な資料を活用するための文化情報学的アプローチ」を担当。服飾文化研究におけるデジタル技術や情報利用の現状報告と展望について述べた。監修：村上征勝
6.シンポジウム「近代京都と図案家」	共	2019年9月	京都工芸繊維大学	「図案家の登場－近代京都と染織図案III」展覧会関連企画。基調講演：樋田豊次郎・講演：松尾芳樹・上田文・パネリスト　岡達也・加茂瑞穂
7.シンポジウム「型紙から見る浜松と遠州における染色の技法とデザイン」	単	2019年2月	静岡文化芸術大学	「型紙から見る浜松と遠州における染色の技法とデザイン」と題してシンポジウムの基調講演及びパネルディスカッションに参加した。
8.シンポジウム「近代		2018年10月	京都工芸繊維大学	「掌のなかの図案―近代京都と染織図案II」展覧会関連企画。基調

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
京都と図案集」				講演：森仁史・講演：早光照子・藤本恵子・松尾芳樹・パネリスト：岡達也・加茂瑞穂
9.シンポジウム「近代京都と染織図案」		2017年10月	京都工芸繊維大学	「纏う図案―近代京都と染織図案Ⅰ」展覧会関連企画。基調講演：森仁史・講演：平光睦子・松尾芳樹・加茂瑞穂・岡達也
10.国際ワークショップ「学術資料としての『型紙』―資料の共有化と活用に向けて」		2016年10月	立命館大学アート・リサーチセンター	登壇者：鈴木桂子・生田ゆき・Hans Thomsen・高木陽子・Kerstin Stover・平田美奈子・堀田結子・永井晃子・松野准子・鈴木亜季・加茂瑞穂・小泉慶太郎・木立雅朗・山本真紗子・枝木妙子・赤間亮
11.国際ワークショップ「海外での「型紙」の姿」	単	2016年2月	University of Zurich	”Examining Digital Archiving Strategies of Katagami through the Prism of a Private Kyoto Collection” 代読：鈴木桂子
12.シンポジウム「つたえる力 ―京都の伝統工芸―」	単	2014年10月	立命館大学	「近代染織資料の保存と活用 ―友禅協会の図案を例として」と題して、近代の図案について発表をおこなった。
13.「型紙に表現された文様の分類方法について」	単	2014年2月	第3回 知識・芸術・文化情報学研究会	型紙の文様を分類する方法について研究発表をおこなった。
14.講演「涼を愉しむ―着物や絵画に表現される夏」	単	2013年7月	神戸ファッション美術館	展覧会「涼をよぶロマンキモノ展―夏の愉しみ」の企画として開催した。
15.(翻訳)「西川祐信作品の挿絵をもとにした漆器デザインについて」	単	2013年2月	『西川祐信研究会論文集』p.101-111(全172頁)	原著者：Bincsik Monika　原著タイトル：Lacquer designs based on woodblock-printed book illustrations by Nishikawa Sukenobu
６．研究費の取得状況				
1.科研費（基盤B）	共	2023年4月～2026年3月	独立行政法人日本学術振興会	研究課題「近代日本における図案からデザインへの展開についての研究」研究代表者：並木誠士
2.日本文化資源デジタル・アーカイブ国際共同研究拠点（立命館大学）	共	2021年4月～2023年3月	国際共同利用・共同研究拠点	研究課題「新しい近代京都機械捺染史構築に向けて―近代デザインと産業史をむすぶデジタル・アーカイブを一助として―」研究代表者：上田文
3.科研費(若手研究)	単	2020年4月～2024年3月	独立行政法人日本学術振興会	研究課題「「図案集」の産業・教育的意義―明治期京都における所蔵状況を中心に」
4.科研費(基盤研究B)	共	2020年4月～2023年3月	独立行政法人日本学術振興会	研究課題「京都の伝統的美術工芸の近代化に関する総合的研究」研究代表者：並木誠士
5.日本文化資源デジタル・アーカイブ共同研究拠点（立命館大学）	共	2017年4月～2020年3月	共同利用共同研究拠点	研究課題「京都を起点とした染色技術及びデザインのグローバルな展開に関する研究」研究代表者：加茂瑞穂
6.科研費（特別研究員奨励費）	単	2017年4月～2020年3月	独立行政法人日本学術振興会	研究課題「近世後期から明治期京都における染織意匠の展開に関する研究」
7.服飾文化共同研究拠点(文化学園大学・文化ファッション研究機構)	共	2010年4月～2013年3月	文部科学省	研究課題「近代京都の着物図案に関する研究」研究代表者：山本真紗子

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2022年1月～現在	服飾美学会幹事
2.2017年4月2020年3月	意匠学会編集幹事
3.2013年7月2020年3月	京都国立博物館　研究支援ボランティア